

## 1) 実現したいこと

### サブエリア10(雑木の疎林)

古典的な里山としての管理を継続し、明るさを保った雑木林として保持する。

### サブエリア11(ススキ草地)

低い背丈の草地に植生変更し子供が遊べ、野外のイベントなどができるように保持する。

### サブエリア11の南エリア(雑木林)

検討中

## 2) 当面の活動概要

**サブエリア10(雑木の疎林)**：古典的な里山管理とは、冬の下刈りと落ち葉掻きを意味するが、一部にタニウツギの保存エリア、弱めの落ち葉掻きをするエリア、夏にも下刈りをするエリア、など管理方法を変えて生態系の変化を見る。また倒木、枯損木の集積場所、落ち葉の集積場所などを決めエコスタックを作る。管理上歩道を作り、歩く場所を限定した方がよいかどうか要検討。またコナラ林への復元を行うかどうかとも要検討。

**サブエリア11(ススキ草地)**：背丈の低い草地を維持する。ただし、一部ススキ草地の維持、昆虫、鳥類などを意識した草地作りの試行を行う。ヤマビル除去も考慮する。

**サブエリア11の南エリア(雑木林)**：自然林への復元中の二次林として遷移を観察するエリアとするかどうか検討する。

## 3) 昨年度(2014年度)までの活動状況・進捗・課題等

### サブエリア10(雑木の疎林)

ヤナギを中心とする疎林だが枯損木、倒木が多く荒れている。林床にはタニウツギなどの灌木とミズヒキなどタデ科を中心とした茎高1m程度の草本に覆われている。秋までに草本、灌木の下刈り、枯損木の伐倒、つる植物の切断を行った。倒木や下刈りした枝葉の整理は行っていない。

### サブエリア11(ススキの原)

背丈のススキが覆っていて一部タニウツギなどの灌木が生える。ススキは夏までにほぼ刈り取った。残さの整理はしていない。

### サブエリア11の南エリア(雑木林)

10年～20年のコナラを中心とする雑木林。林床は灌木、草本が多いが明るい。2014年度は手をつけていない。

## 4) 今年度(2015年度)の活動計画

5-7月 枯損木の整理。下刈り残さの整理。落葉落枝の除去。

8-10月 夏の下刈り。残さの整理。

11-12月 冬の下刈り。落ち葉掻き

以上